

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

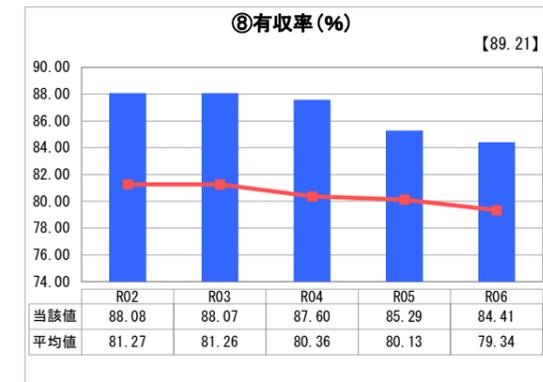
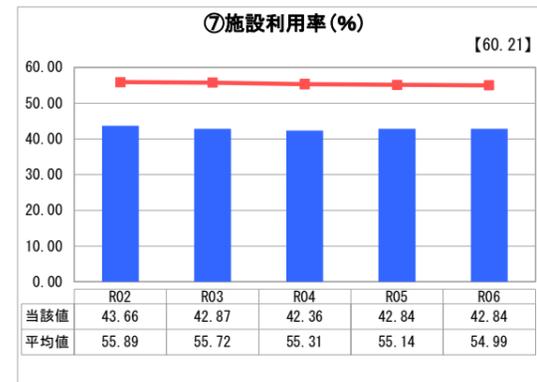
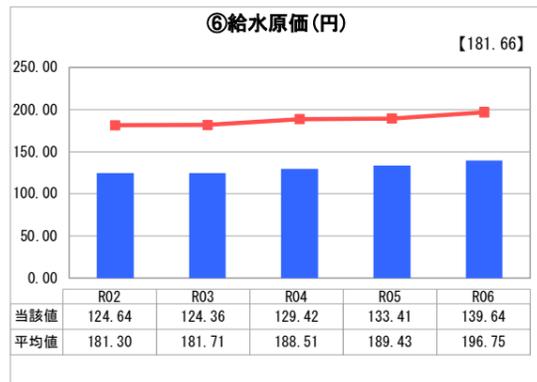
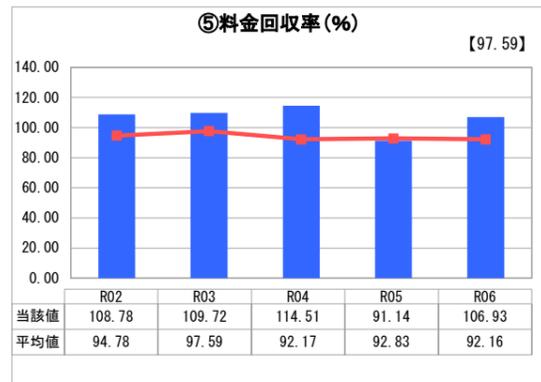
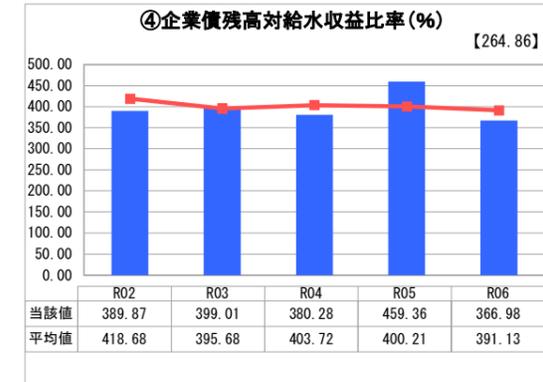
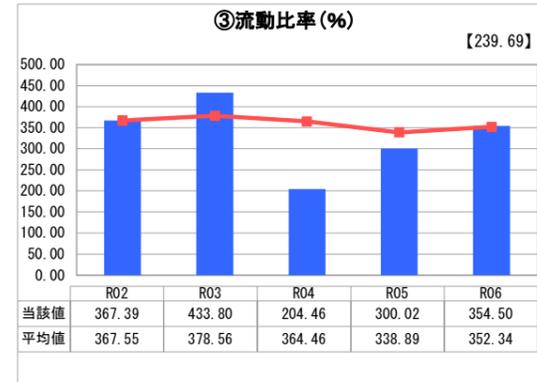
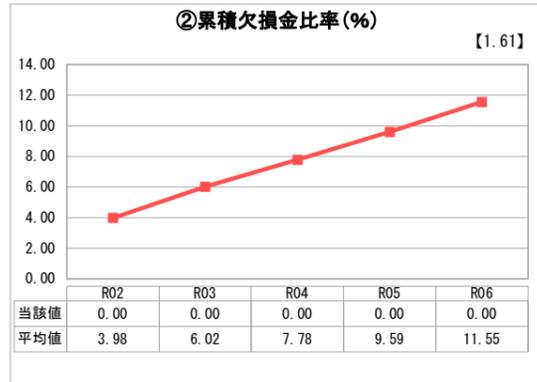
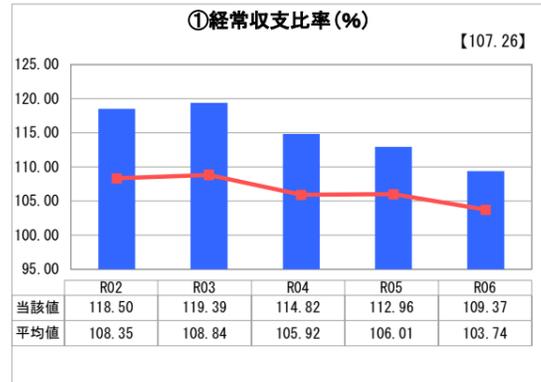
和歌山県 御坊市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	73.50	99.60	2,420	

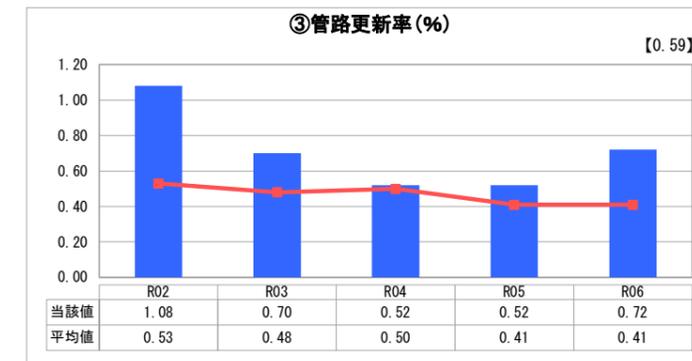
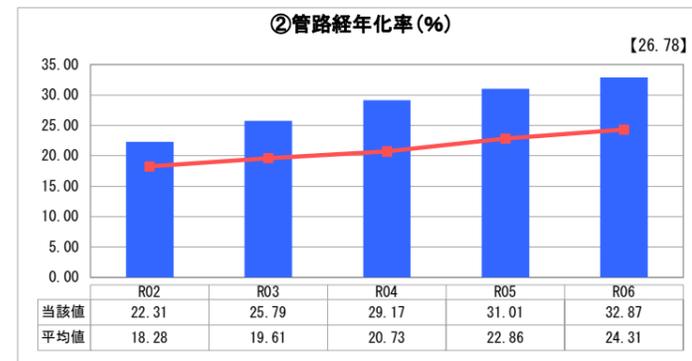
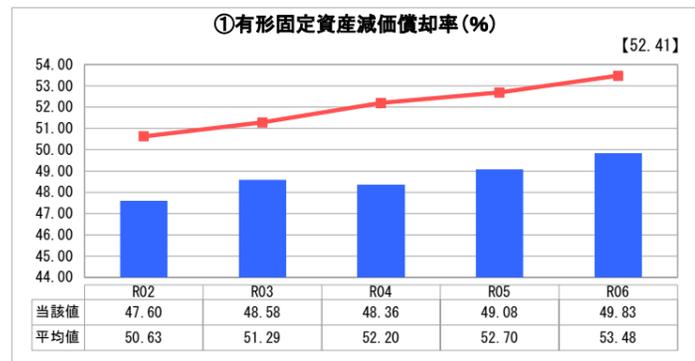
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
21,074	43.91	479.94
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
20,819	43.91	474.13

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は、100%を超えていることから経常的な活動の収支状況は良好である。  
 ② 累積欠損金は発生していない。  
 ③ 流動比率は類似団体平均よりも値が高く短期的な財務安全性が高いといえる。  
 ④ 企業債残高対給水収益比率は借入残高減と収益増により良好である。今後も借入金を償還金以下に抑えて借入残高を減少させていく。  
 ⑤ 料金回収率は100%を超えていることから必要な費用を料金収入で賄えているといえる。また、類似団体平均よりも値が高いことから、本市の料金水準は比較的適切であると言える。  
 ⑥ 給水原価は1m<sup>3</sup>の水を給水するために必要な費用である。経年変化は微増であるが、類似団体と比較して低くなっており良好である。  
 ⑦ 施設利用率は類似団体平均値を下回っており、また経年変化も減少傾向にある。ただちに改善できないが更新時に適正規模になるように検討する。  
 ⑧ 有収率は、昨年よりも少し悪化しているが、漏水調査や管路の修繕等の対策を講じていることもあり類似団体よりも高くなっている。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は微増し、施設の経年化は類似団体と同じような状況で推移している。  
 ② 管路経年化率は悪化しており、類似団体平均値よりも悪い状況である。今後も法定年数を越えた管路の割合が増えることが見込まれる。  
 ③ 管路更新率については、類似団体平均よりも値が高いが、経営戦略における投資目標である1%以上を更新できるように進めていく必要がある。

## 全体総括

当市の水道事業の経営状況は概ね良好ではあるが、水道施設が1970年～80年代に第3次拡張事業等で整備されたものが多く残存しており、経年による老朽化が進行し、大規模な更新時代を迎え老朽化対策が課題となる。人口減少時代の到来とともに節水型社会への移行などにより料金収入の減少が予想されるなか、持続可能な水道事業を実現するために、中長期の更新需要や財政見通しに基づく投資規模等の適正化を図るとともに、計画的な施設更新・資金確保等を検討し「経営戦略」を策定した。令和2年度より10年間の計画期間とし、投資と財源にかかる経営目標を設定し着実に進めていく。とりわけ管路更新については、一時的に事業費が偏在することから、管路の管種や重要度・老朽度等を勘案した上で優先順位を設定し、設備投資の平準化を図りながら取り組んでいく。